

11:1 私がキリストを見ならっているように、あなたがたも私を見なってください。

11:2 さて、あなたがたは、何かにつけて私を覚え、また、私があなたがたに伝えたものを、伝えられたとおりに堅く守っているので、私はあなたがたをほめたいと思います。

11:3 しかし、あなたがたに次のことを知つていただきたいのです。すべての男のかしらはキリストであり、女のかしらは男であり、キリストのかしらは神です。

11:4 男が、祈りや預言をするとき、頭にかぶり物を着けていたら、自分の頭をはずかしめることになります。

11:5 しかし、女が、祈りや預言をするとき、頭にかぶり物を着けていなかったら、自分の頭をはずかしめることになります。それは髪をそっているのと全く同じことだからです。

11:6 女がかぶり物を着けないのなら、髪も切ってしまいなさい。髪を切り、頭をそることが女として恥ずかしいことなら、かぶり物を着けなさい。

11:7 男はかぶり物を着けるべきではありません。男は神の似姿であり、神の栄光の現われだからです。女は男の栄光の現われです。

11:8 なぜなら、男は女をもとにして造られたのではなくて、女が男をもとにして造られたのであります。

11:9 また、男は女のために造られたのではなく、女が男のために造られたのだからです。

11:10 ですから、女は頭に権威のしるしをか

ぶるべきです。それも御使いたちのためにです。

11:11 とはいえ、主にあっては、女は男を離れてあるものではなく、男も女を離れてあるものではありません。

11:12 女が男をもとにして造られたように、同様に、男も女によって生まれるのだからです。しかし、すべては神から発しています。

11:13 あなたがたは自分自身で判断しなさい。女が頭に何もかぶらないで神に祈るのは、ふさわしいことでしょうか。

11:14 自然自体が、あなたがたにこう教えていないでしょうか。男が長い髪をしていたら、それは男として恥ずかしいことであり、11:15 女が長い髪をしていたら、それは女の光栄であるということです。なぜなら、髪はかぶり物として女に与えられているからです。

11:16 たとい、このことに異議を唱えたがる人がいても、私たちにはそのような習慣はないし、神の諸教会にもありません。

偶像の話題の次に教会の混乱についてパウロは問題にします。ひとつは男女の外見についてです。

ここでは、男性のかぶり物、女性のかぶり物、男性の長い髪、女性の長い髪について語られています。もしもそれを普遍的な命令として解釈するなら、「絶えず祈りなさい」と言われている私たちにとって、男性は帽子やヘルメットを被ることは罪であり、女性は常にベールを被っていないと罪になります。またイエス様が長い髪をしていたら、それは「男として恥ずかしい」ということに

なるでしょう。

これは、「私たちにはそのような習慣はない」とパウロが言うように、その時代の習慣に則(のつと)って、語られていることです。

パウロが意味していることは、その時代の習慣や常識から考えて恥になるような外見は避けようということです。クリスチヤンは律法的な生き方はしませんが、自分勝手でいいとうわけではなく、「神の栄光を表す」という喜びの動機があるからです。

またパウロは、「男のかしらはキリストであり、女のかしらは男であり、キリストのかしらは神」とも言っています。男性は女性よりも優位にあるように見えても、結局かしらはキリストであり神なのです。「男性には負けない」『女性には負けたくない』などと対抗心を持つのは意味がありません。要は神に従うことです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

